

富士市SDGsの課題と取り組み



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



目標 7

すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ
近代的なエネルギーへのアクセスを確保する

富士市の課題

2050年カーボンニュートラルに向け、富士市もそうですが、クリーンなエネルギーである再生可能エネルギー導入割合が低く、普及させ置き換えることが全国的に課題となっています。そのためにはまず、エネルギーの使用量を減らしていく必要があります。富士市は、製紙業などが盛んな工業都市であり、その生産活動で多くのエネルギーを消費し、製品を生産しています。生産の機械や操業を省エネルギー化することが必要です。

また、再生可能エネルギー設備(太陽光発電やバイオマス発電など、地球温暖化を進めずにエネルギーを作り出すことができる設備)で、できるだけ多く、安定に、安くエネルギーを生み出すことが必要になります。

そのためには、地域に合った再生可能エネルギーを普及させることがポイントになります。例えば静岡県は全国でも日照率が上位で、太陽光発電を導入するには好条件です。そのほかにも、効率の良い再生可能エネルギーを利用するシステムづくりや、その地域で作り出しその地域で使う地産地消のシステムなどの取り組みがポイントになります。



富士市内で稼働している
コーデュネレーション
(ユニプレス(株)提供)



富士市の取り組み

富士市内の産業で、すばらしい取り組みとして、コーデュネレーション(熱電併給)システムがあります。コーデュネレーションシステムとは、天然ガス、石油等を燃料として、エンジンなどにより発電し、その際に生じる熱も同時に回収し活用するシステムです。製紙産業ではたいへん効果のある省エネの方法として、普及発展してきました。このように、富士市内の工場は、電気と蒸気を同時に作って、燃料から効率よくエネルギーを取り出し、工場の操業を行ってきた先進的な地域です。

また、富士市の北部では林業が栄えています。製材の過程で発生する屑を、ゴミとして捨てるのではなく活用して、木質バイオマスエネルギーを得ることもできます。なにより木は成長過程で二酸化炭素を吸収し、適正に森林管理すれば持続的に恩恵を受けることができます。(バイオマスエネルギーとは、動植物が持つエネルギーを利用した燃料などのことです。木のくずやわら、動物のふん、食品の生ゴミなど、これまでゴミとして捨てられてきたものを利用して、エネルギーの資源にすることです。)このように地域の産業にあった取り組みが広がることが期待されます。

坂東エネルギー・環境研究所 代表

坂東 誠

省エネルギー・コストダウンのコンサルタントを行っています。

また最近では、ライフサイクルアセスメントを通じ、製品、産業、社会全体を広くとらえたエネルギーに関する取り組みも行っています。

富士市SDGsポータルサイトでもっと詳しく掲載中



富士山とともに輝く未来を拓くまち
SDGs 未来都市 富士市

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS